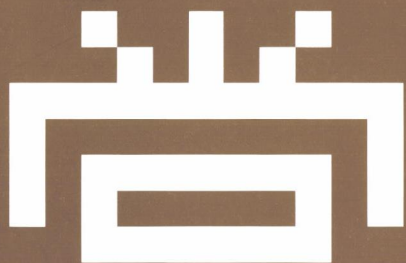


特集—メセナ アワード2011



Mécénat Awards

企業メセナの専門情報誌

メセナnote

Winter 2011

71

受賞活動

メセナ大賞部門

◆メセナ大賞

◆千島土地(株)

「北加賀屋クリエティブ・ビレッジ構想」
創造的なまちづくりへの挑戦

◆朝日酒造(株)

酒蔵を核とする自然保護・文化活動

◆大阪ガス(株)

OMS 戯曲賞による関西の演劇文化支援

◆トヨタテクノミュージアム

産業技術記念館
産業遺産の保存とまちづくり文化の伝承

◆文化の枕木賞

(公財)東日本鉄道文化財団
東日本における地域文化支援

◆解体新生賞

油機エンジニアリング(株)
古民家の修復保存と活用

文化庁長官賞部門

◆文化庁長官賞

◆六花亭製菓(株)

50年にわたる月刊児童詩誌「サイロ」の発行

●特集

メセナアワード2011



7つの受賞活動が決定

優れたメセナ活動を行った企業や団体を表彰する「メセナアワード」。4月初旬から5月末まで自薦・他薦により案件を募集し、94件(88社・団体)のご応募をいただきました。その後の選考会にて、メセナ大賞部門、文化庁長官賞部門で7つの受賞活動が決定しました。今年は、北海道から九州まで全国各地の企業が取り組む、地域コミュニティに根ざした文化活動、地域文化の醸成に貢献している活動が高く評価されました。メセナ大賞部門受賞活動5件については、特に評価された点が賞の名称に反映されています。

選考委員

逢坂恵理子
横浜美術館館長

●木下直之

文化資源学 東京大学教授

●小沼純一

音楽・文芸批評、音楽文化論
早稲田大学文学部教授

●白石美雪

音楽評論、音楽学
武蔵野美術大学教授

●扇田昭彦

演劇評論家

●中谷 巖

三菱UFJリサーチ＆
コンサルティング理事長
不識熟読長

●鷺田清一

哲学者

(以上五十音順 敬称略)

●福地茂雄

企業メセナ協議会理事長

●メセナ大賞

千島土地(株)

〔大阪府〕

「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」

「創造的なまちづくりへの挑戦」

大阪・北加賀屋、かつて造船業で栄えたまちは、1980年代から船舶の大型化などに伴い造船所が次々と移転。大阪湾河口の木津川沿いには、休眠した工場跡がいくつも並ぶ。

そのうちの一つ、名村造船所大阪工場跡地をアトス・ペース「クリエイティブセンター大阪(CCO)」として蘇らせたのが、千島土地である。まもなく株式会社設立100年を迎える不動

産賃貸事業者で、大阪を中心に約33万坪もの土地を所有する。北加賀屋エリアで工場が撤退し、住

人も減少する中、名村造船所から借地返還された約4万2000㎡の敷地



ラバー・ダックを浮かべた名村造船所跡地

に残されたドック(船渠)や工場建物をアートの創造の場として提供し、まちの活気を取り戻そうとのねらいだ。

2004年の「NAMURA ART MEETING」を皮切りに、ジャンルを問わず多くのアーティストが集い、広大な空間だからこそ制作可能な作品も生み出されていく。さらに09年からは、CCOの周辺で同社が所有する不動産にアート関係者を誘致し、滞在制作や発表の拠点として活用してもらう「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」を打ち出した。古いアパートや空き家、店舗だった建物を、借主であるアート関係者がリノベーションし、ギャラリーやレジデンス等に使用。長屋を改装したインフォメーションセンター「ク・ビレ邸」等、現在約20軒のアトス・ペースが点在し、若手アーティストやクリエイターが活動を展開している。

産業が衰退し高齢化が進むまちをアートの力で活性化。文化による地域創造の好事例ではなからうか。

評価Point

● 広大な造船所跡地の文化的活用を起点に、新たな価値と活力をまちにもたらしている。● 民間主導の創造都市のモデルであり、行政や地域住民との連携も進んでいる。

● 酒唄里づくり賞

朝日酒造(株) ————【新潟県】

酒蔵を核とする自然保護・文化活動

創業天保元年、180余年にわたる酒造りを続けてきた朝日酒造は、かつての屋号を冠した「久保田」が代表銘柄の一つ。里山と田んぼに囲まれた越路の地は、優れた杜氏や蔵人を輩出することでも知られる。

清冽な水と良質な米を育む自然環境を守るべく、同社では地域ぐるみで「ほたるの里づくり」や「もみじの里づくり」を推進する。2001年には(財)こしじ水と

緑の会を設立して新潟県内の自然環境保護活動を助成、

会社が基金を拠出するだけでなく、社員も毎月、清酒一升瓶相当の金額を寄付している。

04年の中部地震後に完成した本社屋では、エントランスホールを文化活動に活用する。幅9m、



本社屋エントランスホールでの「酒を造る里のものがたり」発表会

全長90mもの広さをいかし音楽イベントや美術展示等に提供しており、県下で活動する音楽家も定期的にコンサートを行っている。また、隣接する創立者の元邸宅「松籟閣」でも、茶会や寄席などさまざまな催しを実施。伝統的な日本家屋にアールデコ様式の装飾を取り入れた建物は国の登録有形文化財に指定され、昭和初期の建築空間を今に伝えている。

さらに、杜氏の間で歌い継がれてきた「越後酒屋唄」を蘇らせようと、同社の杜氏や蔵人、地域住民など100名ほどの歌い手が集い、一年間の練習を経て実現したのが「酒を造る里のものがたり」の企画である。09年2月にエントランスホールで行われたコンサートは好評で、その後も機会あるごとに歌われ、地元小学校では授業の一環で「酒造り唄」が披露された。

かけがえのない自然環境と酒造りの伝統を守る、地域とともにある企業の営みがその地の文化を醸成する。

評価Point

●越路の里ならではの自然と文化を次代に伝え、育もうとする意志が明確である。●酒造りの生業と伝統に基づきながら、社員が住民と一体となり活動を展開している。

● 演劇ともしび賞

大阪ガス(株) —— 〔大阪府〕

OMS戯曲賞による関西の演劇支援

OMS戯曲賞は、扇町ミュージアムスクエア(OMS)の10周年記念事業の一環として1994年に創設された。大阪ガスの遊休施設を活用した複合文化施設OMSは若手劇団の活動拠点として重要な役割を果たし、2003年、建物の老朽化に伴い閉館する。ハードはなくなったが関西の演劇シーンを支える唯一の戯曲賞は、今も継続して劇作家の発掘に努めている。



受賞作品がまとめられたOMS戯曲賞の冊子

対象は、関西2府4県に在住または在住または関西を主な活動の場とする劇作家が前年に書き下ろし、上演された作品に限っており、毎年50編の戯曲が寄せられる中から大賞1名、佳作1名を選出する。これまでの受賞者には松田正隆や鈴江俊郎、内藤裕敬、土田英生

など、OMS戯曲賞直後に岸田國士戯曲賞を受賞したり、全国に活躍の場を広げる劇作家を輩出している。例年12月の授賞式には演劇関係者や評論家等が集い、選考委員の生田萬、佐藤信、渡辺えり等が議論を交わす公開選評会も劇作家を志す者にとって貴重な機会となっている。

受賞作は選評と選考経過とともに書籍にまとめられるが、09年からは最終候補作をWEB上で公開し、幅広い周知に努める。また大賞受賞作品については「再演支援金」の制度を設け、受賞後2年以内に再演する場合には50万円を授与している。さらに本年からは、「ラジオドラマ」イストワール「histoire」をスタート、最終選考に残った作家に、関西に実在した人物や事件に取材したシナリオを書き下ろしてもらい、キャリアアップにつなげようとのねらいである。

劇作家を育みながら、関西の演劇文化を支え発信する戯曲賞として、今後の展開がさらに期待されている。

評価Point

● 関西の演劇を取り巻く環境が厳しい中、継続してきた貴重な取り組みである。● 再演支援金やラジオドラマなど、受賞者の活動が発展するような仕組みが工夫されている。

●動く技術遺産賞

トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館【愛知県】
産業遺産の保存とモノづくり文化の伝承

名古屋にある産業技術記念館は、発明家・豊田佐吉の「研究と創造の精神」を次代に伝えるべく、トヨタ自動車の創業者・喜一郎の生誕100周年となる1994年、グループ13社の共同事業で設立された。

明治44年から、佐吉が建設した約1万3000坪におよぶ試験工場跡地には、塵突や鋸屋根じんとうののこぎりやねを持つ赤レンガ壁が残され、展示機械とあわせて13点が近代化産業

遺産に認定されている。

館内約4000点の機械、部品が展示され、主な機械は実際に動かせる動態保存であることが特長であり、技術者が常駐して保守・保全作業に力を入れている。

繊維機械館では、ス



動態保存されているG型自動織機

タッフが紡織の基本から紡績機、織機まで運転と案内をする。また自動車館は、材料試験室、試作工場など開発・生産技術の仕組みが紹介されている。さらに、江戸中期から明治初期の「からくり」などさまざまな分野の科学技術資料約1300点の貴重なトヨタコレクションを中心とした企画展も年3回開催される。

教育普及活動にも積極的に取り組み、「週末ワークショップ」では、グループ各社の技術会や地元大学の協力のもと、次世代を担う子どもたちが「モノづくり」に興味を持ち、豊かな創造性を育むきっかけとなる多種多様なプログラムが展開されている。

2005年の愛知万博以来、アジアはじめ各国の視察も増え、入館者累計は300万人を超えた。父子二代の研究と創造にかける夢と情熱が人々の生活を豊かにし、近代産業の礎となったことを知る場として、「モノづくり」文化に携わる多くの人を勇気づけている。

評価Point

●約4000点もの機械を動態保存する施設は他になく、高く評価する。●一企業の歩みにとどまらず、日本の近代産業史を知るうえで希少なミュージアムである。

●文化の枕木賞

(公財) 東日本鉄道文化財団
東日本における地域文化支援

〔東京都〕

岩手県遠野市の茅葺き屋根や新潟県長岡市根田屋の町並み、そして栃木県鹿沼市の鹿沼今宮付け祭り―これらを含め東日本の有形無形の文化財の多くが、東日本鉄道文化財団の「地方文化事業支援」によって支えられてきた。

この「地方文化事業支援」は、JR東日本管内各地の貴重な文化遺産や伝統芸能、歴史的建造物やまち並みなどの保全と継承、地域の発展を目的に1993年からスタートした。JR東日本各支社が選出した候補の中から選考されたものに助成する仕組みで、1事業につき年間



根田屋の史跡保存と町並み整備事業

最大500万円の支援をしている。2011年度も含めると91件の事業に対し総額約8億6千万円の資金支援を行っている

る。また、これまで道具や衣装、建築など「有形」に限っていた用途を、次世代を担う人材育成費といった「無形」まで広げ、支援を受ける団体にとってより柔軟な対応を整えている。

財団の強みは、地元でアンテナの役割を果たす多くの駅や名士的存在の駅長さんたち。そこで集まった情報をしっかりと吸い上げ、助成にいかす。財団担当者は支援先には必ず足を運び、報告会では地元の人たちと膝を突き合わせて意見を交わす。支援が終了した後も、活動状況の把握をし、一過性の事業とならないような気配りも欠かさない。

助成を受けた地域の住民たちの間ではあまりに身近なため、見過ごしてきた地元文化の《価値》にあらためて気づき、地域への愛着や活性化につながるケースも多い。東日本大震災で被害を受けた地域も含めて、東日本各地にある唯一無二の地域文化を守り、後世へとつなげる活動が今後も続いていく。

評価Point

●鉄道事業の強みを活かし、東日本の多彩な地域文化にきめ細かな支援を行っている。●資金使途の柔軟さや継続的な支援など、寛容な運営で幅広い助成を実現している。

●解体新生賞

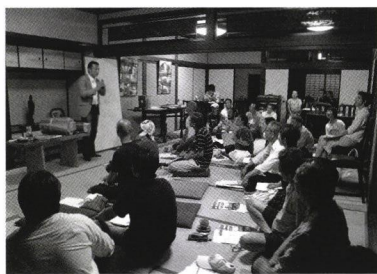
油機エンジニアリング(株)

【福岡県】

古民家の修復保存と活用

建物の解体にかかわる仕事を主とする油機エンジニアリングは、ある古民家の解体を依頼されたことを機に、却って古民家の魅力をいかした活動始める。

福岡県糸島市(旧・前原市)にある「綿屋」という屋号を残す町屋は、江戸時代から唐津街道の宿場町である前原宿を支えてきた旧家・西原家によって、明治34年に建てられた。歴史的な価値が高く、前原市中心地区の景観を残すうえで非常に重要な建物であると判断した油機エンジニアリ



前原古材の森での「住まいの講座」

ングは、この建物を壊さずにいかす方策を考え、独自に修復・保存。2005年より「前原古材の森」との名を冠して、地域拠点として活用するに至っている。

社員と地元住民が連携してワークショップやコン

サート、落語の独演会等を企画開催、この建物でしか味わえない独特の雰囲気は多くの人を魅了する。地産地消のメニューを揃えたカフェを目的に足を運ぶ人も多い。さらには建物周辺のまち並みを散策するツアーを企画したり、近くの宿場町とともに「唐津街道サミット」を開くなど、まちづくりの気運が高まっていった。

ツアーには全国から参加者が集い、シャッター通りの閑散とした商店街にも人の声が戻りつつある。地域資源としての価値を見出した住民の中には、自ら住まう古民家を同じように「いかす」動きが出始めている。

大きな民家は個人での維持が困難なことから放置され、あるいは解体されて失われていく例が多い。しかし地域のシンボルとして使うことで、次世代に引き継がれていく。解体することが本業の企業による修復保存と活用、オリジナリティーあふれるメセナである。

評価Point

●古民家を修復保存するだけでなく活用に至っており、解体とは逆の発想がユニーク。●一つの建物が蘇ることによって住民の意識が変わり始め、まちづくりの輪が広がっている。

●文化庁長官賞

六花亭製菓（株）——【北海道】

50年にわたる月刊児童詩誌『サイロ』の発行

十勝の子どもたちに詩をつくる機会を与えたい——六花亭製菓の創業者である小田豊四郎氏が、福島と同業者が発行する児童詩誌の一篇の詩に心を動かされたのが「サイロ」誕生のきっかけである。当時小学生だった息子の担任に相談し、賛同する教師たちが子どもの詩を募集、表紙の絵を開拓農民で画家の坂本直行氏に依頼して1960年1月に創刊号が発行される。以来今日まで途切れることなく毎月刊行し、50周年を迎えた2010年末には611号を数えるに至った。



創刊 50 周年を記念した 600 号

応募対象は十勝管内の小中学生で、毎月200（300）編の詩が寄せられる。そのすべてに目を通して優れた作品を選び、編集作業を行うのは、地元小中学校

の教師で構成される「サイロの会」だ。ベテランから若手の先生まで、世代交代しながらも「十勝らしさ」「子どもの初々しい表現」にこだわって選考を進める。B5判12ページ程の冊子に載る詩は十数編だが、50年の間に約1万2000編を紹介、投稿数は25万編以上におよぶ。毎号4500部程を発行し、応募者と十勝管内の小中学校、図書館、希望者に無料配布。すでに十勝では「あつてあたり前」の児童詩誌は、サイロの会のたゆまぬ営みと、創業者の思いを継承するNPO小田豊四郎記念基金によって支えられている。

なかさつない

六花亭の中札内工場前には「十勝六花」と呼ばれる可憐な草花を植えた「六花の森」が拓かれ、生涯「サイロ」の表紙を飾り続けた坂本直行の記念館、そしてサイロ50周年記念館が設けられている。半世紀を経て子どもたちを取り巻く環境は変わったものの、詩に綴られた十勝の風景は、時を超えて今に蘇る。

評価Point

●半世紀におよぶ間、同社と地元教師らとの連携で継続してきた実績は圧倒的である。●子どもの詩、言葉の表現力を高めるとともに、十勝への思いが育まれている。

●
トップ・インタビュアー「メセナアワード2011」メセナ大賞受賞

クリエイティブな活動の集積が まちの価値を変える

芝川能一 千島土地（株） 代表取締役社長

メセナ大賞の受賞、誠にありがとうございます。造船所跡地や空き家を

アートの拠点とするなど、文化による地域創造の取り組みが高く評価されました。

ありがとうございます。すばらしいメセナ活動をしておいでの多くの企業と比べ、当社の活動はまだまだ及ばずと思っていましたので、今回このような評価をいただいて正直驚くとともに、今後の励みになると大変うれしく思っています。

北加賀屋は造船業で栄えたまちですが、工場の移転や閉鎖で人口が減り、高齢化が進んでいます。1989年に借地返還された名村造船所大阪工場跡地もその一つで、しばらくは無人管理で灯りもつけず、真つ暗な状態でした。それが2004年に劇場プロデューサーの小原啓渡さんに出会い、その年の9月に開催した「NAMURA ART MEETING」という30年間継続するアートイベントで耳目を集めてからは、〈ナムラ〉のポテンシャルを確信したんです。そこでアートセンターとして恒常的に使えるよう整備してきました。大阪では劇場などの拠点が次々と閉じていましたし、安定して長期的に使えるアートのプラットフォームを目指そうと。05年には「クリエイティブセンター大阪（CCO）」と名づけて、さまざまなアート活動が行われる場として生まれ変わりました。



しばかわ・よしかず

1948年生まれ。住友商事を経て80年千島土地入社。05年社長。大阪土地協会副理事長。クリエイティブオオサカ（大阪創造都市市民会議）発起人。趣味は多岐にわたるが、近年は国内外のアートスペースやアートフェアに足を運ぶことに休日を費やす。

こうして活動を始めたころ、大阪は「創造都市」を掲げて09年には「水都大阪」を開催すべく準備に着手していました。水の都である大阪を文化の観点から再生したいという趣旨で、我々も民間の立場から協力させていただいた。ちょうど06年視察先の仏ナントで手にしたパンフレットに掲載された、ロワール川に浮かぶ巨大アヒルの作品を思い出して、アーティストと交渉して高さ約10mの黄色いラバー・ダックを制作してもらったんです。水にかかわる作品ですし、CCOでつくって木津川から中之島まで曳航してきました。予想を超える話題となってレプリカも売れ（笑）、今もなにかとイベントなどにお声がけいただきます。

「北加賀屋フリエイティブ・ビレッジ構想」についてお聞かせください。

ここ北加賀屋エリアで、我々が所有する空き家や工場跡をアーティストやクリエイターの方々にお貸しして、オフィスやギャラリー、レジデンスなどに使っていたいています。築数十年の木造建築で「本当に使えるのだろうか?」と思うような物件が、アーティストの手で見違えるほどきれいにリノベーションされ、息を吹き返しています。

09年から始めて現在20軒ほどになりましたが、長屋を改装したインフォメーションセンター〈ク・ビレ邸〉ができてからは、それぞれの施設で今なにが行われているかがわかるようになり、このエリア全体で情報を発信することで、アート関係者や若い人たちが訪れるようになりました。さらに、それまであまり接点のなかった地元の方々との交流が生まれたことが大きいですね。千島土地という不動産会社が地域のためにかを



ク・ビレ邸1階には、ひと息つけるバー・カウンターがある

やっているらしい、と伝わるようになってきた。もちろん我々は黒子に徹して、場は提供しますが実践するのはアーティストの方々です。ただ、それぞれの点が線になり面になることで地域の魅力を高め、発信するお手伝いは十分にできるわけです。

今、新しく計画しているのが「おしゃれ農」プロジェクトです。このエリアの空き地で野菜づくりを楽しく、おもしろく、美しくやりたい。地域にお住まいの方々と若い人たちと、アーティストが農作業を通じてコミュニケーションを深めていく。水汲みをするのもユニークな手法を考えたり、農機具でもデザイン性に優れたものが生まれてくるかもしれません。創造的な活動の集積が〈クリエイティブ・ビレッジ〉ですから。

アートがまちにかかわることの意義をどのようにお考えでしょうか。

アートの世界の人たちは同じものを見ても〈見えるもの〉が違うんですね。用途変更のきかない造船所跡地がアートの創造拠点にふさわしいなんて、不動産の発想では決して思いつかなかった。古い空き物件も一転して、地域のコミュニケーション拠点となり、新しい価値を持ったわけです。それがまた、新たな人々を惹きつけます。

今では地元の方や行政とともに地域活性化委員会を組織して、おやじバンドが出演する「すみのえミュージックフェスタ」もCCOで行い、年々盛り上がっています。北加賀屋にお住まいの方々が元気になり、若者が住みたいと思うまちになることが我々の一番の目的です。まもなく財団を設立して、より活動に柔軟性を持たせます。創造的なまちづくりへの挑戦はまだまだこれからです。

〔聞き手・構成…山元愛、萩原康子〕

メセナ アワード2011贈呈式

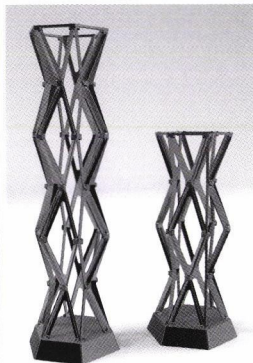
2011年11月25日[金]

スパイラルホール[東京・表参道]にて

- ◎——受賞企業には、表彰状とトロフィーを贈呈します。
- ◎——受賞企業・団体の代表者、選考委員が出席します。

メセナ大賞部門・トロフィー

アーティストに3年間ずつオリジナルトロフィーを制作いただいています。



塔——tower 2011

●
アルミニウムに着色
h513 / 353 × w140 × d161mm

佐藤好彦

1993年、東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。
現代人の生活に無意識に溶け込んでいる大量生産された製品を素材に、「伸ばす」「増殖する」などのアレンジによって、そこに潜む機能や形態のエネルギーを増幅させた彫刻を制作。「キリン・アート・アワード2002」にて最優秀作品賞。05年「第6回 SICFスパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル」にて準グランプリ受賞。

制作コンセプト——芸術文化は人々の表現活動によって成長する塔のようなもの。その塔からは遠い世界を見渡すことができ、皆が共有する財産であり、象徴であり続けます。どれほど政治、経済が発展しても、この塔が機能しなければ人々の暮らしは決して豊かとはいえないでしょう。

2011年のテーマカラー——VIOLETIは古くから高貴で貴重な色として扱われ、また神秘的な色として芸術文化支援のメセナにふさわしいことから、「想像力」「芸術的」といったイメージを表現しています。

※「メセナ大賞部門」のトロフィー制作にあたっては、[株]ワコールアートセンターにご協力をいただきました。

受賞企業プロフィール

◆——メセナ大賞

千島土地(株) [2011年4月現在]

本社所在地：大阪府大阪市

資本金：4800万円 | 設立年：1912年

業種：土地・建物・航空機の賃貸事業 | 従業員数：21人

URL: www.chishimatochi.com

◆——酒唄里づくり賞

朝日酒造(株) [2011年6月現在]

本社所在地：新潟県長岡市

資本金：1億8000万円 | 設立年：1920年

業種：清酒の製造販売 | 従業員数：180人

URL: www.asahi-shuzo.co.jp/social/index.html

◆——演劇ともしび賞

大阪ガス(株) [2011年3月現在]

本社所在地：大阪府大阪市

資本金：1321億6000万円 | 設立年：1897年

業種：ガスの製造、供給および販売

従業員数：1万9684人(連結)

URL: www.osakagas.co.jp/index.html

www.ogbc.co.jp/oms.htm

◆——動く技術遺産賞

トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館 [2011年4月現在]

所在地：愛知県名古屋市中区 | 設立年：1994年

業態：博物館 | 従業員数：64人

URL: www.tcmi.or.jp

◆——文化の枕木賞

(公財)東日本鉄道文化財団 [2011年4月現在]

財団所在地：東京都渋谷区

基本財産：100億円 | 設立年：1992年

業態：財団 | 従業員数：60人

URL: www.ejrcf.or.jp

◆——解体新生賞

油機エンジニアリング(株) [2011年4月現在]

本社所在地：福岡県太宰府市

資本金：3500万円 | 創業年：1995年

業種：建設機械のレンタル・販売修理 | 従業員数：25人

URL: www.yukieng.co.jp | www.kozainomori.net

◆——文化庁長官賞

六花亭製菓(株) [2011年4月現在]

本社所在地：北海道帯広市

資本金：1億3150万円(六花亭グループ)

創業年：1933年

業種：和洋菓子製造販売・美術館運営 | 従業員数：1321人

URL: www.rokkatei.co.jp | www.oda-kikin.com